広島大学附属中・高等学校研究紀要
〈第48号　2001〉

音楽科における異学年合同学習についての考察

増　井　知世子

本稿は，音楽科で取り組み始めている，小学生と高校生との合同学習の実際の報告とそれについての考察を行ったものである。主として生徒が学習に記述したものを分析することによって，異学年合同学習および音楽学習全般に関する今後の課題を明らかにしようとするものである。

1. はじめに

本校音楽科では，教育学部との連携のもとで，附属小学校の音楽科と異学年合同学習の研究を試み始めている。研究を始めるにあたって，異学年合同学習の意義として次のような仮説をたてた。すなわち，年少者は年長者から音楽についての新たな知識や演奏技術を学び，年長者は年少者に教えることによって，自分たちが成長してきた過程や学習してきた過程を再認識することができるのではないかということである。

平成11年度に，小学校６年生と高校１年生の合同学習を行ったが，上記の，異学年合同学習の意義についての仮説は，授業時の生徒間のやりとりや授業後の感想などから判断して，ある程度検証されたと感じている。しかし，時間の関係で，小学生と高校生とが１対１で教えあうような交流ができなかった点や，情意面や認知面では一定の成果が見られたが，音楽表現をより高めるためのスキル面の交流が今ひとつであった点に課題が残った。[1] しかしながら，小中高を一貫してのこのような取り組みはおそらく全国的にもあまり行われていないのではないかと思われる。同年度に，総合的学習の中の異学年間交流という面から一般からの原稿依頼もあり，数ページであるが発表した。[2]

本年度の実践では上述の課題をふまえ，交流に重点をおき，演奏スキルの向上にも着目した。実践のまとめは学部附属共同研究紀要に分担して執筆したが，紙面の都合もあり実践についての十分な考察ができなかった。実践を終えて，異学年合同学習に限らず音楽学習についていろいろ考えるところがあったことから，本稿において実践に対する独自の考察を行ってみたいと考えた。そのことによって，今後の取り組みの課題を見出したいと思う。

2. 合同学習の実際

(1) 学習計画の概要

・対象学年…高２音楽選択者（80名），附属小学校６年生（80名）

・題　　目…小学生と高校生の合同による音楽学習の試み――相互交流を通しての「大地讃頌」の合唱――

・題目の学習目標…小学生と高校生が，互いに演奏を聴き合ったり合同で歌ったり意見交換することを通して，自らを見つめ直し，音楽観を広げ，音楽表現を深めることができる。

・教　　材…大木惇夫作詩，佐藤眞作曲
混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より
第１楽章“農夫と土”，第３楽章“死の灰”，第７楽章“大地讃頌”

・指導計画（12時間）
第１次　交流までの各校での取り組み
“農夫と土”“死の灰”（この２曲は高校生のみ），“大地讃頌”の合唱練習　（８時間）
第２次　第１回の交流および第２回の交流に向けての準備　（２時間）
第１時　第１回の交流
第２時　第２回の交流に向けての準備
第３次　第２回の交流および交流のまとめ（２時間）
第１時　第２回の交流
第２時　まとめ

(2) 交流のあった第２次，第３次の実際

① 第２次第１時…第１回の交流

講堂に集合し，挨拶の後，各校ごとに演奏を披露した。演奏曲は，小学生は「スマイル・アゲイン」と「涙をこえて」，高校生は「大地讃頌」であった。その後「大地讃頌」を合同合唱した。

Music Learning in a Mixed Level Class
Chiseko MASUI

小学生，高校生各10人からなる20人のグループで８ヶ所に分かれ，「大地讃頌」のグループ別練習を行った。場所は，講堂に２グループ，中・高音楽室に２グループ，小学校音楽室と教室に４グループであった。活動内容は，用意した伴奏のテープに合わせて歌うということであるが，あとは高校生の各班長に任せることになっていた。ただ，交流が大きな目的であるため，練習の時に高校生だけで固まってしまわないように，パートごとに小学生と入り交じるようにし，できるだけ名前で呼びかけるように，という確認はしておいた。そのために，小学生高校生ともに，パートと名前を書いた名札を胸につけて交流に臨んだ。グループによっては，自己紹介などしてから練習を始めたところもあれば，とまどっているところもあったようである。この交流・練習の時間を約30分もった。

再び講堂に集合し，もう一度合同合唱を行った。最初の合唱に比べて充実して聞こえたのは，短時間でもグループで交流をもつことができ，全体の雰囲気が多少なごんだことも大いに関係していたと思う。

② 第２次第２時…第２回の交流に向けての準備

第１回と第２回の交流の間に，小学校高校それぞれで授業をもち，第２回の交流に向けての準備をすることができた。

小学生は第１回の交流を振り返っての感想を記述した。高校側の指導者はこの第２次第２時までにその感想用紙を小学校から受け取り，一覧できるようにまとめた。（資料１。論文末に掲載。）これを高校生に提示し，第２回の交流で小学生から高校生へ質問があったときに自分ならどう答えるかについて，あらかじめ考えておくように指示した。このように，音楽や音楽学習についてあらためて自分に問い掛けてみるという作業は，11年度の実践ではできなかったことであり，今回の取り組みでの重要なポイントでもあった。

資料１に掲げた小学生の記述の概要は次の通りである。

1） 高校生との合同合唱や授業の感想

全体に，良かった，楽しかったという感想であった。その理由は，

・高校生たちが自分たちをよくまとめてくれた。
・高校生たちはいろんなパートに分かれていてすごいと思った。
・高校生と合唱すると，今まで聴いたことのないハーモニーやひびきが生まれ，本当にきれいでした。
・楽しかった。コミュニケーションができて，高校生の歌を聴けたから。　　などであった。

中には，良くなかったというものもあり，その理由は，小学生と高校生の楽譜が同一のものでなかったことから，小学生のメゾソプラノが高校生のアルトやテナーに混ざり込んで歌ったために歌いづらかったことや，グループに分かれたとき，班によっては高校生がうまくリードできなかったり態度が悪かったことなどである。

2） 高校生の歌声についての感想

混声４部合唱の「大地讃頌」のひびきが新鮮に聞こえたようである。特に変声した男声の低音の響きに驚きの声が多かった。

3） 高校生に質問したいこと

この項目については，実に多岐にわたっていて，約80名の児童一人ひとりが熟考し自分の言葉でつづっていた。質問は項目別に分けると四つに分類できる。

○「大地讃頌」に関すること
歌詞についての思い，歌詞で好きなところ，表現の工夫などについて

○「大地讃頌」に限らず，“授業”での歌唱に関すること
授業で他にどんな曲を歌っているのか，練習方法，パート分けの方法などについて

○授業に限らず，日常で“歌うこと”について
歌う時，どんなことを考えているのか，高い音や美しい音はどのようにして出すのか，他のパートにつられずに歌うにはどうしたらよいか，男子の変声，授業で学んだことを日常歌う時に活かしているかなどについて

○音楽一般，また歌に限らず，高校の音楽授業について
どのような音楽が好きか，授業では歌以外に何をするのか，高校の音楽室にはどんな楽器があるのかなどについて

高校生たちはこれらの感想や質問から，小学生の音楽に対する真摯な取り組みに感じ入るとともに，自分たちの姿を良い点にせよ悪い点にせよ客観的に指摘されたことに，かなり刺激を受けた様子であった。

③ 第３次第１時…第２回の交流

この時間は今年度の研究大会での公開授業となった。高校生３名の司会者が中心となって交流を進めた。まず「大地讃頌」の合同合唱を行った後，小学生から高校生への質問コーナーとなっ

た。小学生が高校生にどんなことを訊いてみたいかについて，高校生たちはあらかじめ知ってはいたものの，実際どんな質問が飛び出すのか，誰が指名されて答えることになるのか，などの思いで，どきどきしている様子であった。3人の進行係は実に手馴れた様子で交流を進めていった。偶然ではあるが，中心となって進行係を務めた生徒の弟が6年生の中にいる関係で，小学生の名前をよく知っており，小学生の指名も名前で呼ぶことができたことは，小中高一貫校ならではのことであると感じた。

小学生からは活発に質問が出された。質問事項は，例えば資料1に付した番号で言うと，［(34) テナーとバスの違いはどこにあるのですか。］などの，答えがある程度決まっているようなものや，［(13) 家ではいつもどんな曲を聴いているのですか。］などの，個人的な好みに関するものもあり，実際いくつか質問が出たが，ここでは省略する。それ以外の，比較的音楽の本質に近い事項についての質疑応答は次のようなものであった。（番号は同上である。）

Q：歌を歌う時，どのようなことを考えているのですか。（5）
A：歌によります。大地讃頌なら，修学旅行で北海道に行ったとき，この歌が心に浮かんできたので，歌うときも，あのときの北海道の広い大地を思い浮かべて歌います。
Q：歌う時，どのようにしたらつられないで歌うことができますか。（6，7）
A：自分もつられます。あまり他のパートを聴かないようにしています。
Q：声変わりして，歌うのがつらくはありませんか。(19)
A：自分はバスパートですが，わりと低い声が楽に出ます。
Q：男子でも高い声が出せるのですか。(20)
A：自分はカウンターテナーといって，男性の裏声が出せます。「もののけ姫」のテーマを歌う米良美一さんを知っているでしょう。（実際に歌ってみせる。）

高校生がうまく答えられたものと，不十分なものもあった。もう少し音楽の本質に関わるような，また歌唱の技術面に関わるような質問が多く出るように意図し，工夫すべきであった。しかし交流という面では十分に意義あるものであった。

質問コーナーの後，高校生が，「大地讃頌」の歌詞のもつ意味について次のように説明した。

この曲は，佐藤　眞という作曲家が作った曲なのですが，実は，「土の歌」という長いひとまとまりの曲の中に7つの小さい曲がつながっていて，「大地讃頌」は7曲目，つまり「土の歌」の一番最後をしめくくる曲なのです。

「土の歌」の歌詞の内容は，わたしたち人間とわたしたちが生きている大地との関わりを，いろいろな角度から歌ったものであるといえます。例えば，土とともに生きる農民たちの平和でのどかな生活の様子を歌ったもの，また，広島と長崎に原爆が投下されたことに対する，人間の醜さやおろかさを歌ったもの，また，雷や嵐，洪水などの，人間の力ではどうすることもできない自然へのおそれの気持ちを歌ったもの，そして嵐や戦争がやんで，この地球上に生きているすべてのものに感謝する気持ちを歌ったもの，などです。「大地讃頌」はこのように，わたしたちがここにこうして平和に生きていることを心から自然に感謝する曲なのです。

高校生が上記の内容を考え，自分の言葉で語った。時折，“知っていますか”“原爆のことは勉強しましたよね”などのことばで小学生に語りかけながら，説明した。

この後，最後の合同合唱を行った。小学生，高校生ともに最初より生き生きと，真剣な顔で歌っていた。すばらしい大合唱となった。

3.　学習後の高校生の記述の分析

第3次第2時に，まとめとして，一連の交流の取り組みについて，高校生に記述させた。項目として次の2点を掲げた。

1)　交流を通して学んだことや感想
2)　気づきや今後に向けての改善点

1) については，生徒の記述内容はA～Eの五つに分けられた。

1)　学んだこと，感想
A．小学生と高校生との声質の違いについての再発見
・小学生の声はとてもかわいらしく，高校生の私たちとの合わさった歌声はどんなだろうと思った。
・小学生の合唱は低い声がない分，重さはないけどさわやか。

・声変わりする前の男の子の声はきれい。
・小学生にとって声変わりを迎えるにあたっての不安，戸惑い，また期待もあるのだろう。自分も小６のころは戸惑いがあった。

B．小学生の一生懸命な取り組みに接し，自分たちもこうあらねばならないという反省
・恥ずかしがらずに一生懸命歌っていた姿に感動しました。気持ちをこめて歌うのとそうでないのとは，聴く側にもよくわかります。
・授業には真剣に取り組まなければならないという基本的なことが欠けていることがよくわかった。がんばっている人のじゃまはしないでほしい。
・音楽に対する思いというものを忘れかけていた気がした。
・小学生に“楽しく歌うこと”を教えてもらったと思います。

C．小学生の発想が新鮮であるというもの，そしてそれによって気づかされたこと
・小学生は私がぜんぜん気づかないようなことにも気づいていて新鮮だった。
・小学生の純粋無垢な目にはびっくりしました。物事をありのままに見る目があっていいなと思いました。高校生の歌い方や態度について客観的に教えてもらうことができました。
・普段は無意識のうちにしていることを，小学生に質問されて，どう答えようか迷った。一つ一つのことを真剣に考える姿勢について考えさせられた。

D．「土の歌」の内容の説明によって，メッセージを大切にして歌うことは大事であることに気づいたというもの
・A君（進行係の一人で，「土の歌」の解説をした生徒）の解説の後の合唱はよくなったような気がする。歌に込められたメッセージを知って歌うことは大事。

E．この取り組みの意義を感じ取ることができたというもの
・小学生と高校生がうまくやれるのかと思ったけど，「歌」という一つの目的に一体化できた。
・この交流では，音楽へのアプローチの違う視点をもつことができるので，とてもいい取り組みだと思いました。

2）気づき，改善点
この内容もＦ～Ｉの四つにほぼ分けられた。

F．交流の内容や方法について
①グループ学習のもち方
・グループで何の練習をするのか，したらいいのか困った。小学生と僕たちの音楽で習う，練習することの違いが大きいような気がした。
・１グループの人数が多かった。
②質問コーナーについて
・高校生から小学生へ質問，というのがあってもいいと思います。

G．交流をより楽しいものにする方法について
①教材（楽曲）について
・もっと，小学生にわかりやすい曲をやったらいいと思う。親しみやすいのとか。現代のポップとかを自分たちでアレンジしながら。
・もっと皆で歌って楽しめる歌がいいと思います。難度が低くても。難度が高い＝いい歌ではないと思うし，交流なら楽しさ優先がいいです。
②自分たちの音楽的知識・演奏への自信について
・小学生と楽譜が違うことに加えて，自分の音取りができていないなどでどう交流すればよいのかわからなかった。
・高校生の歌がもう少し自信が出るようになれば小学生も楽しいと思う。

H．歌唱技術の向上について
①技術的に高まるための練習
・パート別に教えたかった。
・小学生と技術的な練習をする時間がほしいです。
・（高校生の合唱について）もっと抑揚をつけて歌った方がいい。みんなとても大きな声で歌えるのはすばらしい。もっときれいに聞かせるため，強弱やリズムにより気を使ってみてはどうか。さらに呼吸法を改善できたら最高。まだ地声だから。
②教材について
・もっとすばらしい曲をしたい。せっかく合唱なんだからバッハの時代の合唱曲をしたいです。

Ⅰ．合同学習の意図について

・結局，ねらいが微妙だった。高校生も知識豊富なわけではないし，仮にそうであっても，小学生にはよい勉強になっても高校生にとってどんなもんなんだろう。

・音楽交流は結局どうなるのか。意図がわからない。

4. 考　　察

上記のように，生徒の記述を共通項で分類した結果，実践の成果と課題がかなり見えてきた。

高校生たちは，小学生との交流によって，音楽への取り組みの原点に立ち返ることができたように思う。このことは，12年度に芸術科で実践した「技と匠を訪ねて」で，専門的な技術をもつ職人の方に触れ，その生き方から学ぶ，といった取り組みの成果を想起させる。[3] 今回の高２の生徒たちが高１の時の取り組みであった。音楽科における，世代を超えた交流や異学年合同学習は，“学び方を学ぶ”という点で非常に意義深いと考える。これは“新しい学び”の一つの形といえるのではないだろうか。

また，小学生から高校生への質問の場で，その答えは必ずしも適切ではなかったけれども，教師や書物からではなく，交流のあった高校生から音楽の意味や演奏技術について教わったことは，小学生にとって個人的な意味づけがあったと考える。アメリカの音楽教育学者であるレゲルスキは，ある学習心理学者の論を援用して，次のように述べている。

“学習が成立するための二つの要件は次の通りである。一つは新しい情報や体験の提示であり，もう一つは学習者がその情報や体験に個人的な意味を見出すことである。音楽学習の場合も同様である。”[4]

実践の反省と課題について考えてみると，それは異学年合同学習に固有の問題にとどまらず，音楽学習全般にも関係するように思われる。

異学年合同学習については，11年度の実践に比べれば，はるかに交流をもつことができたのであるが，高校生にとっては不十分だったようである。学習の意図がはっきりしなかったというのも，交流と学習とを２時間の中に詰め込んでしまったから中途半端になってしまったのであろう。４時間くらいの計画で，前半の２時間は交流中心，後半２時間は学習に集中するといった区切りが必要かもしれない。 教材についても生徒からいろいろな意見が寄せられたが，交流では楽しさを優先し，学習では技術的に高めあっていくことができるような高い質のものを考えるとよいのであろう。

演奏技術面については，質問コーナーで技術面に関する意見交換をもっと発展させるとよかった。しかしながら，「土の歌」についての高校生の説明の後で，明らかに合唱がすばらしくなったのは，歌のメッセージを感じ取り，全員が一つの表現に向かって一体化したからであると思う。音楽教育学者マーセルによれば，技術指導は，“どのようにすれば，そのような効果がつくり出せるか”ということに向かって行われるのでなければならない[5] のであるが，この合唱の場面は，“音楽の技術的熟達は，学習者がめざす音楽的効果をつくり出そうとする努力によって支配される”[6] という論を目の当たりにした思いであった。

また，自分の音楽的知識や技術に自信をもてないという意見については，今回は教材や練習時間の問題もあったと思うが，そのような面で自信がもてるような指導上の心がまえと方策が必要であると感じた。

最後に，小学生との合同学習の意図がよくわからなかったという生徒たちはおそらく，従来の音楽学習のあり方と違う点に戸惑っていたのであろう。上述のように，目標が少し曖昧になってしまったが，これも音楽学習の一つの形であるということ，そしてその成果を自分たちはすでに感じているのであるという，学習の押さえが必要であった。

5. お　わ　り　に

異学年合同学習から派生して，音楽学習についてのいくつかの課題が見えてきた。小中高の音楽科で連携し，今後もこの取り組みを発展させていきたい。

参考資料・文献

1) 『研究紀要』，広島大学教育学部・関係附属学校園共同研究体制，第28号，2000年，161–168.

2) 児島邦宏，佐野金吾編，『中学校総合的学習　基本単元の実践プラン　２巻』，明治図書，2000年，53–56.

3) 『研究紀要』，広島大学附属中・高等学校，第47号，2000年，69–77.

4) T. A. Regelski, Teaching General Music, New York, 1981, 354.

5) ジェームス・L・マーセル著，美田節子訳，『音楽教育と人間形成』，音楽之友社，1982年，113.

6) 同上，329.

＜資料１＞

高校生との合同学習を振り返っての小学生の感想　（第２回の交流に向けて高校生に提示したもの）

１．高校生との合同合唱や授業の感想

・すごいと思うのは，ぼくたちがちょっとしゃべっていたけれど高校生がまとめてくれたこと。
・高校生とは，声の高さや低さがちがうので，歌いにくかった。でもよくはもっている感じがした。
・私たちはソプラノ，メゾ，アルトに分かれていたけど，高校生たちはいろんなのに分かれていてすごいと思った。
・全体でやったときはうまくいったと思いますが，８ヶ所に分かれてするとき高校生がラジオを聞いていたのは直してほしいです。
・歌を練習しているときにffとかの意味を教えてもらって強弱をつけたりできたので知らないことがわかりよかった。
・高校生と合唱すると，今まで聞いたことのないハーモニーやひびきが生まれ，本当にきれいでした。
・メゾがアルトとテナーに混じり込んでいたので苦労した。
・とてもドキドキしていたけど，やさしくしてくれて，とても安心して歌えました。
・高校生の人たちの声が大きくてつられそうになった。けっこうぶあいそうだと思った。
・となりには，私と同じソプラノの高校生がすわっていたので，私が出せない（出しにくい）高い音を出せていたので，すごいなあと思いました。あと，班長さんがおもしろいので楽しかった。
・楽しかった。コミュニケーションができて，高校生の歌を聴けたから。
・チームごとに分かれて練習するとき，高校生があまり声を出してくれなかったので歌いにくかった。逆に６年生が声を大きくしたら笑われたりしていやな気持ちになった。
・はずかしがってて授業にならない。つまらなかった。
・まじめに歌ってなくて，携帯をいじくっている人がいたので，ちょっといやだったけど，歌っている人は，声がすごくきれいでした。
・高校生のみなさんと歌わせてもらって，とても，歌いやすかった。しかし，やはり，予想通りで，私たちの声が消されてしまいました。私たちの声が小さいのかもしれないので，もっとがんばりたいです。
・音楽を高校生とやってみて，音を大切することの大切さが分かりました。（音楽をさらに好きにさせてくれました。）

２．高校生の歌声の感想

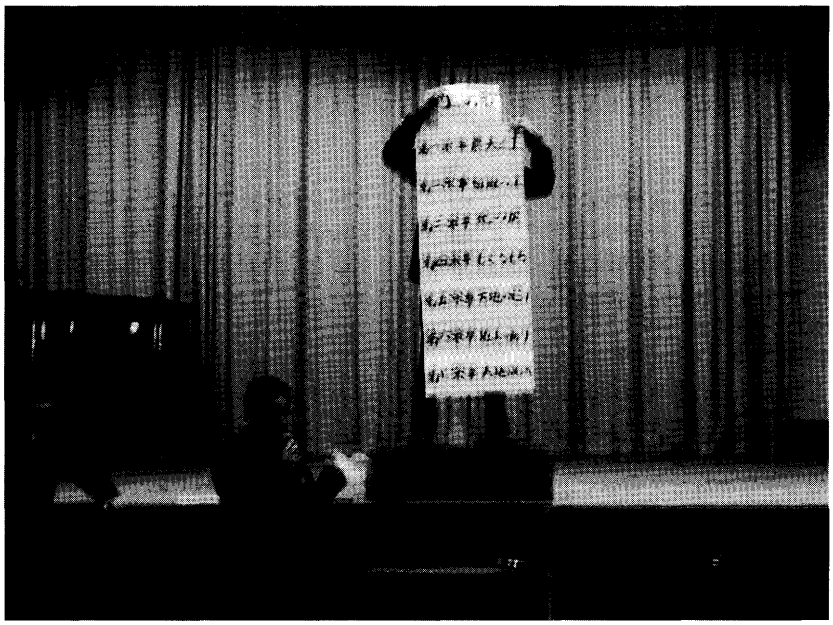
・４部合唱がきれいにハモっていてとてもきれいだった。
・高い声でも低い声でも出せていたので，すごいと思いました。高校生はわたしたちのよりむずかしいのを，きれいに歌えていた。
・地の底からわき出てくるような低い声や高い声が聞こえて，すごくきれいな歌声でした。
・女子と男子に分かれていたので，小学生とは違ったまとまりがあった。
・とてもなめらかで，声の大小がよく分かった。出だしも遅れてなくて，とてもきれいに聞こえた。
・男子の声の方が女子の声をかきけしている？感じがした。
・ソプラノだけのところが，声が小さかった気がした。
・男と女の声の違いがよく分かった。
・男子の声が６年生の男子と全然違っている。不思議な感じ。
・深くすんでいて，とても力強かった。男子の声がかっこよかった。
・積極的に歌う人の声とあまり歌わない人の声の大きさが激しかった。
・口がはっきりあいていない人がいました。
・聞こえない。声が小さい。けど，きれいな声の人がいた。
・声は高い方がきれいだと思っていたけれど，低い声も必要だということが分かりました。

３．高校生に質問したいこと

（１）高校生の楽譜はどんなのかということ
（２）大地讃頌のパートは，分かれて練習したのか，それとも全体で練習をやったのか。
（３）授業では他にどんな歌を歌っているのですか。大地讃頌のパートのように，たくさん分かれているのか。
（４）音楽の時間に歌った歌でどんな歌が好きですか。
（５）歌を歌う前に何を考えたりしたりしているのか。
（６）私はメゾでいつもソプラノといっしょに歌うとよく分からなくなるんだけど，高校生の人たちは，どうやって，自分のパートを迷わず歌うのですか。あと，家では練習はしているのですか。しているのなら何時間ぐらいするのですか。
（７）私は，友達と伴奏なしで，いっしょに歌っていると，よくつられてしまいます。伴奏では，あまりつられません。高校生の人は，どうやって，自分の音で歌える（つられない）ようにするのですか。
（８）息が私の場合は，あまり続かないけれど，どうして，長く息が出せるのか。
（９）音楽は好きですか。ぼくは好きです。

(10) 高校では，男子がソプラノをするってことはないんですか。
(11) どうしたら高い声がきれいに出せるのか。
(12) どうやったらきれいで大きな声が出るのですか。私たちは大きな声を出すときれいな声が出なくなり，きれいな声を出すと，声が小さくなります。
(13) 家ではいつもどんな曲を聴いていたりするのか。口ずさむ歌はどんな歌が多いのか。
(14) クラシックではどんな曲が好きですか。
(15) 歌を歌わなかったらおこられるけど，高校生はおこられないんですか。
(16) どうやるともっとなめらかに歌えるのか。そのコツを知りたい。
(17) なぜ（テンポが）遅れずに歌えるのか。
(18) 小学校の音楽室には，太鼓，マラカス，タンバリン，キーボード，ピアノ，ギターがありますが，高校の音楽室には何がありますか。
(19) バスの声で歌うのはつらいんですか。僕はアルトですがあまりつらくありません。
(20) 男子は高い声を出せるのですか。
(21) どんな楽器が好きですか。どれくらい楽器が使えますか。
(22) 授業前には，発声練習はするのですか。
(23) 大地讃頌はどのようなことを思って歌うのですか。
(24) 大地讃頌の詩を聞いたとき，どんな気持ちになりましたか。
(25) 高校生は授業以外の歌もこのように，きれいな声で歌っているのですか。ぼくは，きれいに歌うようにしています。
(26) 授業で，どのような練習をしているのか。
(27) ぼくは歌うより聞く方が好きだけど，高校生の人は歌うのと聞くのとどちらが好きですか。
(28) なぜ音楽を選んだんですか。
(29) 授業では歌を歌う以外には何かするのですか。
(30) パート分けはどんな方法で決めるのですか。
(31) 大地讃頌の歌詞で好きなところはどこですか。
(32) 歌の途中，話す人がいたけれどそれはいいのですか。
(33) 大地讃頌はいつから練習しているの。
(34) テナーとバスのちがいはどこにあるのですか。
(35) 曲の中ではどの部分が一番好きですか。一番歌いにくいところはどこですか。
(36) 最後のところでは，どのようにしたら声が大きく出せるようになりますか。
(37) 歌うときどのようなことを心がけたか。
(38) 声変わりをして合唱の時歌いづらくないですか。
(39) パートごとに，どのように練習しているか。
(40) なぜ恥ずかしがるの？なぜ話をそらすの？
(41) 歌っていない人がいたけど，どうしてですか。つられたりしませんか。

4．その他

・また高校生と授業をしてみたい。１回目よりもっとうまくなって先生たちをさらにびっくりさせるようにがんばりたい。２回目は１回目とちがうハーモニーやひびきが生まれるようにがんばって歌いたいです。
・はじめて声を合わせた時は，よく声が出なかったけど，グループごとに分かれて練習をした後に合わせた方が，はじめよりも声がよく出せてとてもきれいだと思いました。
・音楽がんばって下さい。
・もっとよく歌ってほしい。
・グループ別に練習したとき，高校生のお姉さんが「わたしたちよりキミたちの方が上手だね」と言ったけど，そんなことないと思う。
・姿勢が悪いときれいな声は出せないので，姿勢を正しくした方がいいと思います。
・年齢の違う人と合唱をするのははじめてでドキドキしたけど，やってみると，はじめて聞くハーモニーが生まれたので楽しくできました。またいっしょに歌ってみたいなと思いました。
・「死の灰」とかいう曲も聴いてみたいです。
・また，高２の人と歌ってみたいです。今度はアカペラでやってみたいな。

＜資料２＞　第２回の交流の様子